

佳作

## この夏、私が学んだこと

兵庫県 姫路市立花田小学校六年 星住 碧心

私は毎年お盆にお墓参りに行きます。今年も十三日に花と線香とロウソクを持って家族で行きました。着くとお墓の周りの草を抜きお墓に水をかけ、しぼったタオルでふきます。私がタオルでふいているとお母さんが、

「なぜふくか知ってる？」

と言いました。私は、

「こんなに暑いのにふかなくても乾くのにな。」

とお母さんに言うと、

「お墓は亡くなった人の魂が入っていて、魂は見えないからお墓が亡くなった人の体の代わりなんや。」

と教えてくれました。

「みんなお風呂から上がって夏場かってに乾くけどふくやろ？だから一緒やねん。」

そう言って一緒にふきました。私が生まれてから、おじいちゃん、おじいちゃんのお兄さんと奥さん、まだ十二年しかたっていないのに三人も亡くなっています。

私は、人は一生のうち何人の大切な人を天国に見送るのだろうと疑問に思いました。

また、墓地には星のマークの付いたお墓が並んでいました。戦争で亡くなった人のお墓だそうです。戦争の時は骨もなく爪や髪の毛や体の一部だけのおそう式やお墓を作った人がいると教えてもらいました。今では想像できないけど、そんなことが当たり前だったのが戦争の時だとお母さんが言っていました。今も外国で戦争をしている国があります。そんな国では今もそんな状態なのかと思うと、心が痛く苦しくなりました。

「お母さんも戦争のことはよくわからないから、ひいばあちゃんに聞いたら？」

と言われ、お盆でお参りに行った時に少し戦争について聞きました。ひいばあちゃんは私と同じくらいの時に戦争があったと教えてくれました。姫路も市川の西側や姫路駅の周りなど空襲がひどかったことや夜中にサイレンがなり家族で隠れたことなど今の

生活からは考えられない、怖い思いをたくさんしたと言っていました。ご飯もお腹いっぱいとかそういう問題ではなく今日は食べられるか食べれないかという状態で、今の子みたいに欲しい服やオシャレなんてとんでもない、破れても当て布をしてぬって使っていたそうです。きつと今だから笑って話してくれているけど怖かっただろうなと感じました。帰りの車の中でお母さんに、ひいばあちゃんと話したことを言うとお母さんは、

「戦争とか実際に経験した人の話を直接聞けるのももう少しやから聞ける時に聞いとときよ。」

と言われました。来年は戦後八十年らしく戦争経験者が少なくなつて貴重な話になっていくと言っていました。

私は今年の夏、お墓のことや戦争のことを初めて聞き今の私たちの生活との違いや、昔のことがあったの今があるということを学びました。来年は中学生になります。もっといろんなことを知り、学んでいきたいと思いました。